

④ 3082²/₂ 紀上 238²/₂ ⑤ 3082²/₂ ⑥ 3251R²/₄ 「てに」 前頁の裏面 3.090²/₂

紀上 238²/₂ 注12 原文
古語拾遺 37²/₂ 誤文

52²/₂ 2273²/₂ 井上(上) 212²/₂ ~3²/₂
やぐの軽かといふ 141 ④ 3082²/₂ 天つ改行 宇治上116に記述あり

天照大神(鏡)と日本大國魂神
勢を畏れて共に住みたもうことを我慢なさ
らなかつた
井上光貞、中央公論社、二一二三頁参
照
新畏神威。同殿不安
漸に(ようやく)神の威を畏りて、殿
を同くたまふに安からず
という情況にあつた。(「日本書紀」(上)日本
古典文学大系、岩波書店、二三八頁、注十二
「古語拾遺」西宮一民校注、岩波文庫、三〇
三、五一一、三七頁、三八頁参照)
崇神天皇に相当する神武天皇
(後期継体天皇)は、次のように対処された。
天照大神(天孫降臨の際に下された八咫鏡
と天叢雲剣には、豊鍬入姫命をお付けになり
倭(大和)の笠縫邑(位置未詳。奈良盆地
中央を南北に走る近鉄橿原線、笠縫駅は西北
方約一キロの田原本町新木か)に於てお祭りになった。

「小町」(35)-8 (1) さまとのお名てした子
僕大田魂と君大田魂に

航上 238°
 航上 270°

3,091^D

③ 3088^P - 1/3 紀上 239^P 注 19 ③ 3083^P 變世 ③ 3251^P - 4/4
 紀上 2710^P 市磯平尾市 紀上 2409^P ③ 3083^P
 ③ 238^P 紀上 270^P 紀上 270^P ③ 3083^P 紀上 128^P 紀上 238^P

・また、日本大國魂神（大己貴神）には、
 名城入姫命をお付けになり、神地を穴磯邑
 （櫻井市箸墓付近）に定めてお祭りになった
 （崇神紀六年条。垂仁紀二十五年三月条参照）
 その後、神武天皇（後期継体天皇）は、
 天武天皇の復讐を表明して、天武天皇（草薙劍）たりき、
 朝廷へ戻されたのであろう。（『古事記』第二編『笠縫邑』において既述）
 是を以て、垂仁朝に相当する欽明朝に
 大倭直の祖である市磯長尾市（長尾
 市宿禰）に命じ、日本大國魂神（倭大神・
 大倭大神ともいう）三輪山の大神主神か。大己貴神の
 崇神紀六年条
 （垂仁紀二十五年三月条参照）
 と解釈してみたい。（第六十五章へ笠縫邑。
 穴磯邑の項において詳述したい）
 なお、
 へ神山（三輪山）の大神主神の起源は、大
 倭國の神山（阿蘇山）にあるところから、
 日本大國魂神、倭大神、大倭大神、
 とも記すのであろう。（崇神紀六年条、日本大國魂
 と想像される。（崇神紀六年条、日本大國魂

コクヨ ケー20 20×20

671

新(1)-15上 東の 新(1)-15上 ③3083'85" 紀上270' 75" 紀上270' 135"

退位して一朝の世を実現する
ものの、いゝやがて、

新刊
ない
3080

その後
54

(*)

点
点

3104
-1/2
1行

幾たび

3251^P-1/4 3085^P 未か5行 3104^P-1/2 3092^P
皇居の御131 一万 次頁 19行

新刊(1)-154^P

HV

ヤマトのおほほ
倭大神

ヤマトのおほほ
倭大神

神 垂仁紀二十五年三月条 大倭大神

照 其の後 神武天皇 後期継体天皇 は 退

位 して 二朝時代を廃止し 一朝の世とす

たのだらう

其の 一 二期 二朝時代の 東の朝廷

に 仕え いた 多くの 朝臣達 から 路頭に 迷う 情

況 にな った 想像 さ する

其の 二 神武天皇 は 止む な 二朝時

代の 復活 継統 を 表明 して 天叢雲剣は 草

薙剣 だけ を 東の 朝廷 へ 戻さ した の であ る

(荒筋 第二編 笠縫 臣) において 既述

て 代々 伝え ら れ て きた 本来 の 日 八咫鏡 は

一 一 其れ から 後 幾度 も、 其の 所在地 を 変え て

い った よう である * 第 9 表 第 4 表 参照

定 か で ない が、 次 の よう に 考 え

東 の 日 本 国 土 (近畿) に お い

て 代々 伝え ら れ て きた 本来 の 日 八咫鏡 は

一 一 其れ から 後 幾度 も、 其の 所在地 を 変え て

い った よう である * 第 9 表 第 4 表 参照

定 か で ない が、 次 の よう に 考 え

井上下360[↑] 見72[↑] 3087⁵ 鶉
紀下478[↑] 鶉 紀下474³ 行
室68 292[↑] (赤) 3098[↑] 鶉

聖徳太子の英断による

H31(2019)2,28(木)~3,2(4回)
令和2(2020)3,22(日)~3,24(5回)

3.097^P

たてお 小抹
献る 632^P ④3081-3/2
④3081-3/2 3行~

3/23 正 3/23
3/22
3/24

あんち
安里
3行

とが置かれて、代々の皇位継承の際に使用さ
れ続けた

と想到される。

■先述の~~文~~のように、古語拾遺に(崇神天

皇系)に、

更に鏡を鑄、剣を造らしめて、護の御爾玉

と爲す。是、今踐祚す日に、献る神璽の鏡・

剣なり

とある。

その通りなの~~で~~あろう。

*

と解く(封も解く)

④3092-左

朱鳥元年 紀下480

紀下371 赤 3096P
下げる

宮後紀上308P(宮後紀)
「熱田神宮」40P
紀上312P 3098P

紀上312P

熱田神宮の草薙剣

熱田神宮に「草薙剣」(天叢雲剣)が安置さ

れたようになっている。時期について、現在、次の

二つの説がある。(「日本書紀」下「日本書紀」文

学大系「岩波書店」三七一頁注二四参照)

「天武天皇の朱鳥元年(六八六)まで、朝廷

に「日本武尊の説話」から推して、

「古くから熱田社にあったとする説」

の二つである。

この物語においては、

前者をとるべきとせたい。

つまり、日本武尊が尾張の宮簀媛の家に置

いた草薙剣は、日本武尊の死後まもな

く熱田神宮に奉遷された(熱田太神宮縁記)

というわけではなく、

熱田神宮へ送られ、安置された、と考えたい。

なお、景行紀五十一年八月条に

「初め、日本武尊の佩せる草薙横刀は、是

と記されているものの、

「今」

675 安達 (奉祀では理解に...))

神剣(国)3091P-3/2

694 平定通部
672 神剣
122
3,099P

日付 1914P
封印 1914P
封じ目に印を捺すこと

「日本書紀」泰和時代完成とある
こと

本書紀完成当時(1)の(2)と解される。
●八日本書紀完成当時(2)すでに草薙剣
は熱田社に在った。✓
という意味なのであろう。
●もつとも、その後、熱田社はなぜか朝廷
に重んぜられなかつた、という。
●恐らく、
① 国に二君があつてはならない。
② そして又、宮中に神璽の剣が二振もあつて
はならない。
と考えられ、熱田社に送られた草薙
剣は、厳重に封印されて、平安時代初期の
頃までの長い期間にわたって話題にされるこ
とすらなく、ただひっそりと保管されていたの
であらう、と推察される。
● 一かき考えてみれば、人々に知られ
かのように、東国尾張国の熱田社内で密か
に安置されてゐる剣こそ、本来の神璽
の剣、天叢雲剣(草薙剣)である。尊貴な
● その由緒ある神剣を、祭祀も行なわす、な
いかし、ろにしておいてよいもの、あ
らうか。

改行

15
+40
55

822
-807
15

822
3,100
P

515

40P 46P

560

2023P 神に幣帛を221する 斎部 P 3081-1/2

斎部広成は、平城天皇の大同二年(八〇七)

古語拾遺に「一卷を献上し、そのなかで

熱田神宮の祭祀のことにふれ、こう述べた。

「草薙神剣はこれ天璽である。――(中略)――

奉幣のある日には、同じく(伊勢神宮

の八咫鏡や、宮中の神璽の鏡・剣と同じく

意か)幣を奉るべきである。而るに、久代長

いこと祭祀が行なわれていないのは、まこと

に遺憾である」

斎部広成のこの訴えは、朝廷の首肯すると

ころとなつたようである。

十余年を経て、まず神階の面にあらわれ、

ついで社格の面にあらわてくる。

平安時代前期の嵯峨天皇の弘仁十三年(八

二)六月に「熱田社の神階従四位下」とい

う記録が、日本紀略にはじめてでてくる。

そして、それから四十年あまりで、最高位

の正一位までのぼる。斎部広成が古語拾遺

をたてまつってから、五十年余が経過して

いた。(「熱田神宮」篠田康雄、学生社、五

四)五六頁参照)

*

OK

ここは、③3098P1行
 「熱田神宮」に 紀上571P上巻の4行
 マは入っているが※印 ④1442-1/3 9行

③ 紀上124P末 3,101P

じこで
 きた!!

紀上571P注19・2,7x30.3
 「熱田神宮」51P = 81.81
 ・2,8x30.3
 = 84.84
 江戸初 1603年
 明治元 1868

きょうほう
 享保 577P 表⑥

江戸時代中期の

1736
 1716
 20年
 ①

■なお、享保年間（一七一六年六月二日）一

七三六年四月二八日）に書かれた玉籤集という

本に、神官四、五名が熱田神宮の草薙剣をひ

そかに拝見したと、次のように記されている。

「御神体は長さ二尺七、八寸（八十三セシ前

後）ばかり、刃先は菖蒲の葉なりにて、中

程はムワクリと厚みあり、本の方六寸ばかり

は節立ちて魚等の背骨の如し。色は全体白し

（「皇室大百科」朝日通信社、三〇一頁）日

本書紀（上）日本古典文学大系、岩波書店、五

七一頁注一九参照）

■かつ素戔鳴尊が大蛇（大者）から奪った

天叢雲剣（草薙剣）は、こうして尾張国

吾湯市村に在すこととなり、現在に至っている

（代紀上）第八段一書第二参照）

の熱田神宮

*

開上(下)377[?] 紀下571[?] 紀上571[?] 3/102[?] タイトル

紀下571[?] 3.102[?]

天つき
改行

宮中の神璽 日鏡と日劔
これでは宮中の神璽はどのような運命を
経たしたのだろうか。

持統紀四年(六九〇)一月一日条に

神璽の劔と鏡 皇后(持統天皇)に奉
上た 皇后は皇位に即かれた

とある。 すなわち、神璽劔鏡とあり、この時点迄

は未だ王は神璽とされていなかったこと
がうかがえる。(既述)

この後

宮中の神鏡は、平安朝までのある
別殿(賢所)に祭られたこととなる。

そして、天皇の身辺に置かれ即位の時に授
受される神璽は日劔・日玉へと変わり、神璽

の名も転化し、日玉を指すようになった
という。日本書紀(上)日本書紀(下)日本書紀(下)日本書紀(下)

とところからその後、日鏡も日劔も、予期
せぬ災難に遭遇する(宮中の)

賢所の日鏡は、寛弘二年(一〇〇五)と
長久元年(一一〇四)の二度の火災によって

H11.5.7④
H36(2018)8,10(金)~8,12
(4回)
F

お緒元259^p
HL

この
際

3,103^p

1074
青蓮院^p
弘1114

紀上571^p

壇ノ浦の戦元1415^p

焼け損じ、原形を失ってしまった。(日本紀略・小右記・春記等)

・一方、日創は、寿永四年(一一八五)三

月二十四日、安徳天皇壇浦入水の際、海底へ

沈んでいった。

・そこで、やむなく、別の剣を以ってこれに代

えたという。

日玉のみのみは損亡の事実がなく

植村清二氏は、もともと日玉は実在しな

ったとの学説を発表している。

とはいえ、壇浦における実見の伝聞記録

(青蓮院文書慈円覚書)も存在しており、

も、かいたら、日玉も壇浦の合戦

の時、親にまき、行方分らなくな

てしまったのかも知れない。(「日本書紀」

上)日本古典文学大系、岩波書店、五七一頁、

補注二一九参照)

切れた緒を離れて飛び散った玉のように、

四散して、また真実は、定かならな

いものの狭間に紛れ、人では、あ

(*)

香明天皇は
 朝倉へ行かれた
 147 地名 1014
 伊予 主 地名 1014
 把本 1232

3,104^P - 1/2

古代朝鮮 118^P に
 この当時の記載がある
 紀小 489^P
 紀下 26
 地名 1014 市村 147
 495 5 511
 491 1 491
 4 4 20
 3123 棟

点々とする
 継体天皇の帝都

継体紀五年(五一一)十月条に、

都を、山背の筒城に遷す

とある。

第1表のよう

あったとすれば、

継体元年が四九一年で

継体五年は四九五年

になったとは、

継体五年は、

西暦五一一一年である

この物語ではとりあえず、日本書紀の紀年

に従って、

継体五年は、

と解いてみたい。

五一一一年十月に、

都を太宰府の地か

山背の筒城へ

地理的に相当する所

浮羽あたりへ遷した

郡田主丸

生葉行宮

浮羽

205

コクヨ ケー20 20X20

元は 507^P (第8巻) 681-1/2

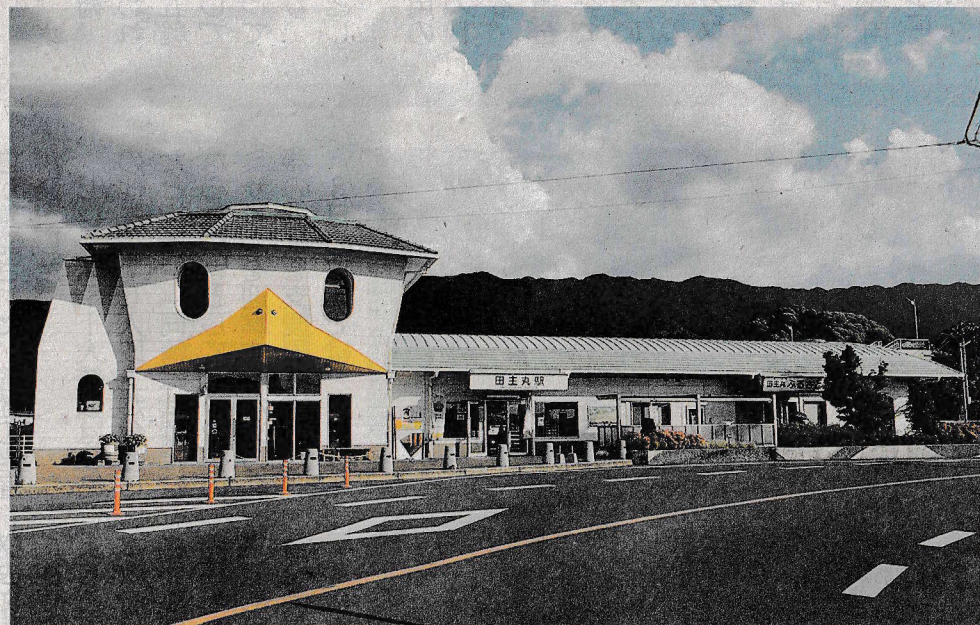


JR久留米駅から列車に揺られ、果樹園や平原を横目に約30分。田主丸駅（福岡県久留米市）で出迎えてくれたのは？

あふれる河童愛 つなぐ町の顔

耳納連山を背後に、木造2階建ての白い駅舎は愛らしくたたずんでいる。緑色の屋根の下、楕円形の二つのほめ込み窓はつづらな瞳のようで、黄色い三角形のひさは、嘴にもみえる。

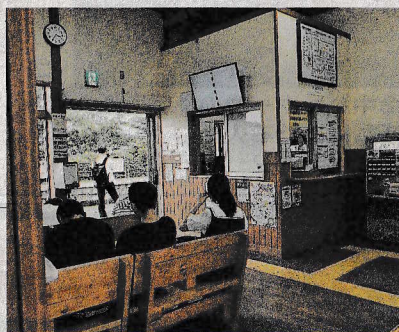
「河童伝説を大切に継承している地域の顔」。河童をいかした町おこしに取り組み住民グループ「田主丸河童族」の荻田馨蔵さん（73）は笑顔で語る。中央アジアから大移動し



河童がひじをついて寝そべっているようにもみえる。地域の住民はもちろん、観光などに訪れる人々からも親しまれている

DATA

設計：西村工務店
階数：地上2階
用途：駅舎、カフェ
完成：1992年



昔ながらの改札口ではICカードは使用不可。乗降客は切符を駅の職員にみせる

た河童の一大勢力「九千坊一族」が筑後川の支流、町を流れる巨瀬川にすみついた。そんな伝説が残る地に、芥川賞作家の火野葦平（1907〜60）がたびたび訪れ、小説を通して語り立てたことが、いまにつながっている。

「河童駅舎」は92年に誕生した。旧田主丸町の職員で建設計画に携わった井房生さん（69）によると、28年に建てられた初代駅舎の老

朽化が進むなか、竹下登内閣が「ふるさと創生」として全国の自治体に配った1億円を町が活用した。全町民に使い道を募る自由記述アンケートを実施し、選考会議で精査して「田主丸駅付近のイメージアップ」に使うことを決めた。

デザインは、町内の県立浮羽工業高校の夏休みの宿題として生徒から募集。提出された複数の原案をモチーフに、町内の西村工務店が設計図におこし、JRから土地を借りて町がつくった駅だ。屋根の中心にせり出した採光窓で頭頂部のお皿を表現し、駅前の道路側にもホーム側にも同様の顔をあしらった。

駅の待合室、特産品の展示場などに使われていた駅舎は、2018年のリニューアルでカフェ「KAPAFERIA」に生まれ変わるなど、町民にも観光客にも親しまれている。

住民たちの「河童愛」も衰えることはないようだ。ホームに河童の石像があぐら座りをするほか、町内のあちこちにモニュメントが置かれ、河童にちなんだ土産品も少なくない。

2階の河童の目からは、平野に広がる町が見渡せる。河童に愛着を抱く地域の人々を見守っているようにみえた。（片野美羽、写真も）

3,104^P - 2/2

といふことなのかも知れない。
何故都が遷されたのかは、不明である。
とはいえ、この地では、何かと不便だった
のであろう。さらに又、遷都の止むなきに至
る。と云ふことになる。

*

〔帝国地名辞典〕太田為三郎、名著出版、〔筒城〕参照

5-297^P, 307^P
784年 5月檢令 11月遷都

「小田」92^P下
乙訓の都
水戸の便もよい

3,105^P
AIR 381^P

凡生記 383¹/行 ④ 3040¹₃ 昔付山青 紀小 489¹
382²注 ④ 3057¹_{3/2} 作武以外 紀下 34¹
0.3172¹ ④ 3123¹_{1/10} 紀下 山城 地名舒 1608¹

継体紀十二年（五一八）三月九日条に、
「遷りて、弟國に都す」と記されてゐる。

現在の長岡京市ふきん

皇は、弟国へ淀川北岸の山城国乙訓郡に地
 理的に相当する所へ筑後川北岸の長閑
 の神の社へ鳥栖市田代町永吉へあたりへ都を

基肄郡、長岡の神の社条参照）
 ということなのであらうか。（肥前国風土記）

この地は、筑後川のほとりのこの地は、
 使がよくな天上の国の都と博多湾との中間に
 位置しており、都を置くのにふさわしい。

皇の延暦三年（七八四）長岡京への遷都（桓武天皇）と考えられたのかも知れない。

参 照

水陸の交通も便利であって

④ 3502 $\frac{P}{3}$ 紀下 184^P 35行

紀F186^p

3,106^p-7/2

たすな
多須那 紀下160^p
(宗) 用明2年

坂田66^p, 73^p

600年代の仏師

紀下160^p
"186^p

排他

F8/12
8/1

て排他的だったようである。
・「流布」(世に広まること)しなかった
という。
南朝の一。五〇二(五五七)
なお、大和国高市郡高市村坂田。ついで、
「古、坂田寺のありし地なり。継体天皇の
時、司馬達等佛像を持て梁より渡来し、此地
に在り。其子多須那、用明天皇の疾病を祈禱
の爲め、自ら丈六の佛像及此寺を造りし
と云う。(「帝国地多辞典」太田爲三郎、名
著出版)へ坂田参照)
また、日坂田寺に關し、
「奈良県高市郡明日香村坂田に金剛寺があ
り、日坂田寺の法燈をつぐという」
といわれている。(「日本書紀」(F)日本古典
文学大系、岩波書店、一六〇頁、注八参照)
司馬達等(達止)は、推古朝に多くの仏像
を作った鞍作鳥止利仏師の祖父である。

日本社寺大観「名著刊行会」金剛寺

別名、千年川ともいうの

唐天竺の黃河の上流

3,107P- 2/3

↓オレオレデライター川

- ・カラー
- ・上下左右
カットしないで
下さい。
- ・頁の上半分に
大きく掲載
下さい。

←まがわ
河川



白雲堂にある、
新人物志、38に
時
飯倉義文、
の正体、
河
「ニッポンの河」

1409

写真図版 574

河童渡来の碑 (熊本県八代市)

* 後方に、球磨川が見える。

1309

熊本県八代市商工観光部、観光振興課、森下氏提供。(平成26年5月撮影)

687P

半面アキ

航海安全
水難消滅

河童渡来之碑

ここは千五六百年前、河童が中国方面より初めて日本に来て住み着いたと伝えられる場である

3,107 3/3

この二個の石は、ガラツパ石と呼ばれ

三百五十年來の橋石であつた或

日いたづら河童が付近の人々に捕

えられた時、この石がすり減つて消

える迄、いたづらはせぬと誓い、年に一

度の祭を請うたので、住民はその

願を諒とし祭を当日の五月十

八日と定め、今でも「オレオレデーライタ

川祭」と名づけて毎年祭を行つ

ている

河童に、川とある川か
す。
↑
*左の石柱に付
れオレデーライタ
とある

頁の下半分に
掲載下さい。

昭和二十九年六月

八代市中島町内会

中島史蹟保護会

「神」能本の地名
下(能田)2P

③ 3116 P-1/2 ④ 1023³ 前 8¹ 5¹ 7¹ 5¹ 3¹ 前 689¹
11行 東南方

⑤26°544' 魏志倭人伝 19° 92' 93' 94'

魏志倭人伝 43° 3,109° 1/2

②

た
し

と
う。

唐の張楚金の口翰苑に卷三〇の魏略逸文に

「聞其舊語、自謂太伯之後」

・日晋書に（卷九七、四夷伝、倭人条）に、

「自謂太伯之後」

・口梁書に（卷五四、諸夷伝、倭条）に、

「倭者自云太伯之後」

とある（飛節第一編「太伯の後」呉王の血筋）

他
に
お
い
て
既
述

③ また、魏志倭人伝には、

「其の道里を計るに、當に會稽の東冶の東

に在るべし

と記されてゐる。（既述）

④ こうしたことから

「倭国の支配者達の祖先は、中国大陸から

渡来した

と推察される。

* つまり、

「ハツクニシラス天皇（本来の我国初代の

九州 小林 36^P 中口 全土のこと 3,109^P 2/2
 3,109^P 2/2
 水天宮 3,114^P 筑後川のほとり
 かはくえ 河伯 444^P

倭王 曰 崇神天皇 曰 は、中国大陸から渡来之
 小たし
 と察せられる。
 ⑤ それから数百年後に、継体天皇は、筑後川
 沿いの地に都を置かれたのであろう。
 というところなのである。
 (既述 後述の「水天宮」他参照)
 ② 河童(河伯) 渡来の伝説
 曰 太伯の後 曰 と自称する倭人達の渡来の経
 緯
 の両者は、極めて類似している。ようは思われ
 る。
 ① あるいは、
 ① 河童は、黄河の上流に住んでいた。その
 中の一族が、郎党を引き連れて黄河をくだり
 指し、九州一の大河である球磨川の河口に上陸
 した。そして、その後、河童達は筑後川流域へ
 移り住み、さらに全国へ広がっていった。河
 童は人々の間で伝説化され、水についていたし
 というふうに解すべし。主なのかも知れない。

菊池郡志 393°
河童の世界 86°
84° 3116-1/2

市町村字名
菊池市

3113°
3116°

河童の世界
87° 85°

3,110°

渋江家

河童伝承と切り離して考えられ
ない日 渋江家山について述べてみよう

倭人(神童)達が海を渡ってきたときから
以後、その子孫は増え続けていった。

こうして、数百年の年月が流れた。
さて、肥後国菊池郡菊池市亘の日 渋江家
の先祖をたどると、敏達天皇の五代の孫、左

奈良時代の貴族

大臣橘諸兄の父が四代孫

大臣橘諸兄に至るといわれる。この渋
江家こそ、水神を管理する家柄であり、河童を
使う水霊祭司の家柄でもあるという。

つまり、渋江家は、河童の総元締的存在
である。

そして、この渋江家は、水難除けの御札を
出して、このことで知られている。その御札を
小さい竹筒や布袋に入れて身につけていると
河童に取られぬ、という。(「菊池郡誌」

名著出版、三九三頁)「河童の世界」石川純

一郎、時事通信社、八五(八七頁参照)

系譜 光明皇后 飛鳥皇子 6頁 系図

日本史辞典

橘諸兄 393

橘地 351

かっぱの世界 86

橘島 地 523

合輔 1348

市町村番号 33

天子を補佐する人

武雄市 橘町

大輔 大かき

佐賀県 地図

天保 1148

3114

393~4

3.111

潮見 地 356

S62.4.2 (木)

日本史 635

不心等 右 橘島

有明海北岸の西端に聳える孤立丘の杵島山

(三四二丁) から西方三丁ばかりのところに

位置している肥前杵島郡橋村の潮見神社の

祭神は、橘諸兄・橘奈良麻呂・橘公業・橘島

田麻呂、および橘朝臣波江の橘一族とされて

あり、この潮見神社の由来ともいうべき

話が、北肥戦志に載っている。

橘諸兄が聖武天皇の御代に政道の補佐を仕

てから後、その孫島田丸も兵部大輔として

朝廷に仕えた。

(六八四一七五七)

なお、橘諸兄は、聖武天皇の信任を得たが

やかて藤原仲麻呂の勢力に圧倒されて解職し

た。

橘諸兄の子橘奈良麻呂(七一七五七)は、

除こうと企てたものの密告により発覚し、刑に処せられた。

とはいえ、奈良麻呂の母が藤原不比等の娘

であつた関係から、奈良麻呂の子島田丸は朝

廷に仕えることが出来たのであろう。

71かるに、神護景雲(奈良時代、称徳朝

の年号、七六七七七〇)の頃、春日神社

春日神社

わらわい 元2375 冒す元285 前良来下 早々元1821 白寿=99才 元2383 かに 403 元444 河童 3109-2/2 とき 449.1597

3, 112

(今の茨城県)

常陸国の鹿島から大和国の三笠山へ遷す
 際、島田丸が工匠奉行となつた

その時のこと、工匠頭が九十九の人形を作

リ、匠道の秘法でもつて加持するや、たちま

ち童と化して熱心に仕えた。

尚、河伯(河童)の白山という字は、百から一

を差し引いた九十九を意味する

そこで、さしもの大工事、早々と成就し

た。肥後国菊池に相当するといえるところ

春日社が造営成つた後、かの人形をみな川

の中へ削り捨てたところ、元のように動いて

人馬六畜に害を冒し、世の災いとなつた。今

の河童のことである。

このとき、称徳天皇の勅で、兵部大輔島田

丸がその化人の災いを鎮めた。

こゝにちなんで、河童を曰兵主部と名づ

けた。以来、ヒヨウスバは橘の眷属になつ

た。

という。(「河童の世界」石川純一郎、時事

通信社、九六頁参照)

3,113^P

(と)

天地元水神 勅許 1463 河童の世界 86 年6月
3114 天子の中

新撰姓氏録

■ そして、日姓氏家系大辞典に所収の「菊池

風土記」には、春日社造営の後、蘇徳

天皇より島田丸に、天地元水神を氏神に付

属する旨の勅許があり、水部の主として

行事を執り行うという一条が見えてゐると

いう。さらけ、日菊池風土記には、菊池の菱

江家と肥前各地の水神社司菱江氏との間に

親交があつた、ということに加記されてあり、

「菊池の菱江氏こそ水神を管理する家

柄なのだ」

という。ハ「河童の世界」石川純一郎、時事

通信社、八六〇八七頁参照)

*

九州参考歩 234^ル かんぼう 勸請 494^ル あかばね 地巻 17 (武蔵国) 3,114^ル
カッパについて 新内印板 (黄) 天狗の巻? 虫屋 殻かまの 市町抄 255^ル

さし 3112^ル - 1/2 27 日本社 年に建久 (1190~1198) という 有馬 久留米藩 ありま 電 有馬 久留米藩

水天宮
一方、筑後国久留米の有馬公領内に住む
宮はなりて河童達は筑後川のほとりの水天
宮に久留米市瀬下町の眷属として仕える
ようになったとされる。
① この水天宮は、鎌倉前期の建永(一二〇六~七)
ころに建てられたお宮で、祭神は瀬の下の大
神、尾御前といわれる筑後川治水の神であ
る。
② 安倍氏の水虎説によると、
筑後国の尾御前の神職、江氏の先祖
は、夜宴などの際、
て鯉などを取らせていた。
* 水虎は水中の怪物の意である。
講談社「水虎」参照。
このことから、筑後国の水天宮の分霊
を、赤羽の河岸にあった有馬公の江戸屋敷へ
勸請し、さらに遷したのが、今の日本橋蠣殻
町の水天宮である。と
石川純一郎、時事通信社、八五頁。「日本社
寺大観」名著刊行会「水天宮」参照。
(東京都北区の地名、荒川右岸)

小量 記上556
については記上なし

总果 小林
369
纪下240^P

纪上 394^P
 纪下 240^P

(河童の世界27^p
紀上 414~25^p

3,115^P

17

↑
て
み
よう
う

それでは、河童伝承が今日のような形に整えられたのは、何時のことなのだろうか。

早くは、和名類聚鈔に日蛟（和名美豆知とあり、仁徳紀六十七年）是歳条に日大蛇（和名美豆知とあり、仁徳紀六十七年）とある。

もつとも、これは大蛇、または竜のようであつて、河童ではない。また皇極紀元十一年十月条および仁徳紀十一年十月条および皇極紀元年七月条に、日河伯（和名美豆知とあり、仁徳紀十一年十月条）と記されている。

だが、この河伯が河童の字を指しているのかどうか定かでない。

ともあれ、古代文書中には、河童名彙が見当たらない。（「河童の世界」石川純一郎、時通信社、二七頁、四五頁等参照）

しかしながら、だからといってただちに古代には河童が存在しなかったのだという（こと）にはならない。

以下、河童について思うところを述べ、未だ想像されていなかった